

業務の実施体制(二次審査用)

■ 学校のニーズと魅力を共有し、課題と選択を共に考えていく設計プロセス、構想の共有と相互理解を誘発するアクション (幅広い意見の反映方法)

基本計画段階から唯一の提案をして計画と設計を進めるのではなく、ワークショップを介してニーズや魅力を共有します。また、設計者が複数の提案をして、関係者が課題を把握、共有し、より良い選択を見つながら計画を進める、課題選択共有型のプロセスをとります。建築家と研究者による経験豊かなチームによりワークショップやシンポジウム、説明会を交えた総合的なデザインマネジメントを目指します。

松波小学校を育んできた地域の連携を活かしたワークショップ

松波小学校の計画では、将来の少子化を見据えて、多用途に使える空間を効率的に利用し、コンパクトかつ有効な空間構成が求められると考えます。ワークショップを通じて使用者のニーズを把握し、専門家の知見を活かした学校を作り上げていきます。在校生、教職員、地域の住民や歴史ある小学校のOB・OG、更に中学校職員や企業といった多様な参加者から、各回のテーマに合わせてメンバーを組合せた連携型ワークショップとします。ワークショップにおいては設計者は複数の選択肢を提案し、参加者とそれぞれの提案のメリット・デメリットを共有し、専門分野の専門家の意見を伺いながら、共に提案の中身を吟味し最良の選択を積み上げ、より良い環境を作れるよう、参加者自らが働きかけることができる参加・体験型の設計プロセスとします。

プロジェクトの進行に沿った住民説明会

松波小学校は地域開放の場として、地域社会の重要資源となります。基本計画策定およびそれに続く設計プロセスを通して、定期的な住民説明会を行い、ワークショップと合わせて、学校に愛着と関わりが生まれ、地域のなかで長く愛され、誇りを持って活用される端緒とします。

学び、考えるシンポジウム

建築家、研究者、新校の学生や教職員を交えたシンポジウムを開催します。快適な学習空間のあり方、多様な個性をもつ児童たちが力を発揮できる空間といったテーマについて、情報を交換し、能登町の意識醸成を目指します。

■ 基本計画期から始める的確なコスト管理 (コスト管理の体制)

北陸で35年以上にわたり公共工事の積算業務に従事してきた経験豊富な積算事務所がチームに加わることで、リアリティのあるコスト管理を実現し、建築プロセスを円滑に進めることを可能にします。構造、設備をはじめ設計部門の専門的な知恵を集め、イニシャルコストとランニングコストの削減に取り組みます。そうした中でも、木材をはじめとして能登町の豊かな地域産材料と地場の技術をできるだけ使用し、地域の産業や経済の持続性に寄与する長期的な視点で合理的な建築のあり方を目指します。

基本計画時よりコストの分析を始めます。特に昨今の材料費高騰、納品までのスケジュールなど、注意深く市況を見ながら、設備構造計画・計画規模・発注時期など、発注者と情報を共有し、設計を進めます。

■ サテライト設計室の設置によるスムーズなコミュニケーション (業務進捗管理の体制)

今回松波に拠点を持つ建築士が我々のプロジェクトチームに加わります。その事務所を専任の設計スタッフで常駐する今プロジェクト用サテライト設計室に設定し、基本計画から竣工までにわたる、学校側および教育委員会といった関係者、地域の方々との距離の近いコミュニケーションを目指します。

基本計画スタート時に、設計チェックリストを作成し、いつまでに何を決定するか(クリティカルパス)を設定し、発注者と共有します。これをベースに都度進捗を確認しながら、設計を進めます。

■ 多くの人々が関わり、知恵を出し合いつくる (その他に特に重視する業務体制等)

学校建築の経験豊富な設計者、能登町内の建設事情に精通したコラボレーター、専門研究者によるチーム体制で松波小学校の基本設計に取り組みます。

